

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	白石町立白石小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研では、引き続き算数科の研究に取り組んだ。ノートや振り返りの書き方の観点について、全職員で理解し、指導に当たったため、成果が表れている。また、教職員間でマイプランを共有し、学力向上に取り組むことができた。来年度は、さらに深い学びにつながる対話的学びになるように、研究を深めたい。 ・来年度はGIGAスクール構想により一人一台の学習者用端末の利用が可能になる。学力向上につながる端末活用を努めていきたい。 ・新型コロナウイルスや自然災害等から身を守るための、保健指導や防災教育に今後も継続的に取り組む必要がある。
------------------	--

2 学校教育目標	心豊かに、創造性を発揮し、たくましく生きる子どもの育成
----------	-----------------------------

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ①算数科の校内研究を通して授業力向上を図り、児童の学力向上につなげる。 ②一人一台の学習者用端末の効果的な活用による授業の質の向上を図る。 ③新型コロナウイルス感染防止対策をとりながら、健康で安心・安全な学校・家庭生活を推進する。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師が80%以上	・課題を工夫し考えを表現し合う活動を多く取り入れることで、授業改善を図る。 ・教師間でマイプランを共有し、教師一人ひとりが意識して授業に臨む。	B	・全国学力学習状況調査の結果を分析し、児童のつまずきを明確化することで、課題を共通理解することができた。 ・教師間でマイプランを共有し、今後の授業改善への意識を高めることができた。	A	・マイプランの成果指標をほぼ達成できた自己申告する教師は100%であった。教師一人ひとりが授業改善を意識して取り組むことができた。 ・県学習状況調査結果を分析し、各学年の課題に対応した指導改善のポイントについて共通理解を図ることができた。
	○校内研究の充実	○「自分の考えを書いたり、話したりすることができる」と答えた児童80%以上 ○授業の振り返りの観点を理解して、振り返りを行うことができた児童が80%以上	・児童が自分の考えをもとに対話的な深い学びができるよう、考えを表現し合う場面を工夫する。 ・「ノート名人」「ふりかえり名人」の観点について全職員で共通理解し、指導に当たる。	B	・少人数や学級全体で話し合う場面を児童の実態に合わせて取り組んでいることで、「自分の考えを表現することができる」と答えた児童が80%以上になった。 ・ノート指導を継続していることで、本校の振り返りの観点に沿って「振り返りをする」と答えた児童が、2年生以上が80%以上になった。1年生でも入門期後に振り返りの指導を発展的にやっている。	A	・自分の考えをもとに話し合う授業を継続したことにより、児童への算数アンケートで、「自分の考えを書いたり、話したりすることができた」と答えた児童80%以上になった。 ・児童への算数アンケートで、1年生を含めて「振り返りのポイントを使って書くことができた」と答えた児童80%以上になった。1年生も、自分の言葉で学習を振り返ることができた。また、上学年では振り返りの幅が広がった。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童・保護者が80%以上	・ふれあい道徳を実施し、全クラス授業を公開する。 ・授業後、ワークシートに感想や振り返りを書かせ、学級だより等で保護者に知らせる。	B	・ふれあい道徳未実施のクラスは、2学期以降の参観日で実施する。 ・授業後の振り返りを各学級の実態に応じて行い、学級だよりや教室掲示で保護者へ知らせることができた。	A	・ふれあい道徳として、全学級で授業参観時に授業を公開することができた。新型コロナ感染防止のため、保護者参加型にはしていない。随時、学習の内容や様子については、学級通信で紹介することができた。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等)の取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上 ○いじめ等の対応や指導を適切に行っていることと答える保護者が80%以上	・毎月「心のカード」を実施する。 ・人権集会(教室)を計画的に実施する。 ・学級経営案に沿って、学期ごとにPDCAを行う。 ・気になる児童については、毎週水曜日の職員連絡会で共通理解し、対応策について協議する。	B	・毎月「心のカード」を実施し、担任が学級の児童の実態を把握することができた。 ・毎週水曜日の職員連絡会で、気になる児童について話す時間を設けることにより、全職員の共通理解を図って対応することができた。	A	・いじめ防止等の対応や指導ができていると回答した教員が100%、保護者が91%であった。いじめの早期発見や早期対応を組織的に行うことができた。 ・人権集会の取り組みの中で、お互いを認め合う仲間づくりや認知症の高齢者への接し方などについて考えを深めることができた。
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちや高める教育活動の推進	◎将来の夢や目標に向かってがんばっていることと答える児童80%以上	・将来の夢について考える機会を授業の中で設定する。 ・出前授業等を活用し、専門家の話を伺う機会を設定する。	A	・JAの職員や大学教授などを招いて、専門的な話を聞くことができた。 ・後期にも外部との連携を図り、出前授業を行っていく予定である。	A	・児童はスクールカウンセラーの先生から授業をしてもいい、中学校へ進学した時の人との関わり方について学んだ。 ・卒業式や二分の一人式に向けての準備などの活動を通して、将来のことについて見通しをもっている児童が増えた。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	●規則正しい生活を送ることができた児童が80%以上	・9月1月に「はなまるすこやかチェック」を実施し、1週間、就寝時刻、朝ごはん、歯みがき、ゲームの時間等について振り返らせる。 ・保護者と連携し、生活の改善につなげる。	B	・9月の「はなまるすこやかチェック」週間の前に「規則正しい生活」「ゲーム障害」について各学年で指導を行った。9月の結果は「規則正しい生活ができた」と答えた児童が44.9%、「半分くらいできた」は47.5%だった。 ・チェックカードの保護者のコメントから、児童が事前に目標を立てることで規則正しい生活をしようとする意識が高まり、保護者の協力も得られていたことが分かった。	B	・1月の「はなまるすこやかチェック」週間の事前指導として、「睡眠」についての指導を9月の事前指導よりも詳しい内容で行った。各学年の目標就寝時間までに寝ることができた児童は9月は75.4%、1月は75.0%で80%には届かなかった。下学年の方が、達成率が低く、家族の生活リズムが影響している様子が保護者のコメントから伺えた。 ・実施前に目標を立てることにより、児童の意識が高まった。
	○運動習慣の改善と体力づくり	○週に3日以上外に出て遊んだり、スポーツをした児童が80%以上 ○外遊びのための具体的な方策を考えている教員が80%以上	・持久走週間や長縄跳び月間など定期的にに取り組む。 ・委員会活動で、季節に応じた遊びを紹介する。	B	・委員会でもみなが外で体を動かす機会を設定した。 ・教師は、児童に対して外で遊ぶように声かけができていく。今後も継続していく。	A	・マラソントイを実施し、体を動かすことの充実感を得た児童が増えた。 ・教師が外遊びを推奨し声かけを続けることで、年度当初よりも外で遊ぶ児童の割合が増えた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。(目安、1か月:45時間 1年間:360時間)	・学級事務の時間確保のために会議の内容、時間の見直しをする。 ・会議は終了時刻を提示し、時間内に終わるようなタイムマネジメントをする。 ・定時退勤日を決め、遵守する。	A	・予定外の会議を設けず、定例の会議のなかで協議、伝達、連絡が済みようになっている。 ・会議の時間配分を考えた進め、時間内で済んでいる。 ・毎週金曜日を定時退勤日とし、声かけを続けている。	A	・会議については指導教諭の事前の準備、調整のおかげで時間超過なく進めることができた。 ・職員一人一人、時間外自発勤務時間を毎月提示し、自分の状況について確認してもらい、超過勤務が続かないように自分でも働き方のマネジメントをするよう、声かけを続け、時間外勤務時間の上限を守ることができた。
	○学校組織、教職員集団としての働きやすい雰囲気づくり	○働きやすい職場だと答える職員80%以上	・教職員同士の親睦を深めるための会を定期的に開催する。 ・情報を共有する場を設定する。	A	・職員室で、学年関係なく意見を交わしている場面が多く見られた。 ・職員連絡会で、教師の困り感を全体で交流する機会があり、情報共有できている。	A	・アンケートを実施した結果、働きやすい職場だと答えた職員が85%以上であった。 ・コロナ禍で定期的な会を開催することは難しかったが、教員実施し親睦を深めることができた。 ・ほとんどの職員は働きやすい職場だと感じている。しかし、若手の職員など意見が言いにくい場面があるので、来年度以降も気兼ねなく交流できるような環境を作れるよう努力していく。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
○地域連携	○学校、家庭、地域が協働した取組の推進	○体験活動が充実していたと答えた児童が80%以上 ○「あいさつ・家庭学習・手伝い・自力登校」ができていると答えた保護者が80%以上	・学校運営協議会(コミュニティスクール)を通して、地域の人材を生かした体験学習を計画する。 ・学期毎のメール配信により保護者への理解・協力を求める。	B	・新型コロナウイルスの影響も徐々に収まりだし、2学期からは、計画していた体験活動を実施することができている。 ・挨拶については、地域の方からできていないとの意見もあり、生活のあての一つとして指導を続けている。	B	・1月の学校評価アンケートの結果で、体験活動充実に関して89%の児童が充実していたと答えていた。10月～12月の体験活動は感染対策を講じながら実施できたので、限られた期間ではあったが、児童にとって充実した学びとなった。 ・児童の生活改善について家庭へ、学校便り、保健便りを通して働きかけた。保護者アンケートの結果、出来ている割合は、挨拶が87%、家庭学習82%、手伝い73%であった。
○安全教育	○危機対応力の育成	○「学校は防災や不審者侵入などの対策ができている」と答えた保護者が80%以上	・年3回の避難訓練を実施し、職員・児童の危機対応力を高める。 ・月1回の安全点検を確実に遂行する。	A	・不審者対応、火災対応についての避難訓練を計画通り実施することで、職員・児童の危機対応力を高めることができた。 ・月1回の安全点検を確実に遂行できている。	A	・年3回の避難訓練(不審者、火災、地震)の避難訓練を計画通りに実施し、職員及び児童の危機対応力を高めることができた。 ・月1回の安全点検を確実に遂行することで、校内の安全管理に努めた。
○図書館教育	○読書活動の充実	○年間読書100冊に達した児童が90%以上	・多読賞や読書マスターの紹介・表彰、「規定の冊数ごとに花を咲かせる掲示」を継続する。 ・図書館便りなどで学校での読書活動について具体的な実践を知らせる。	A	・100冊貸し出し達成が124人(76%)、1人あたり平均176冊借りることができた。 ・図書館便りや学級通信で学校での読書活動の様子やおすすめの本の紹介を知らせることができた。	A	・100冊貸し出し達成が138人(85%)、1人あたり平均212冊借りることができた。多読賞の紹介や図書館での季節ごとのイベントが、読書の推進につながっている。 ・図書館便りや学級通信で学校での読書活動の様子やおすすめの本の紹介を知らせることができた。

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、校内研究において一人一台の学習者用端末を活用しながら、かつ算数科の授業づくりを中心とし、全員が授業を行い、授業を見合うことで、授業力向上を図ってきた。来年度も、感染対策を講じながら、児童の学力向上につながる取組を行っている。 ・日々、新型コロナウイルスの感染対策をとりながら、児童が楽しく学校生活を送ることが出来るように、安心・安全な環境作りを努めてきた。学校内での感染の広がりはなく、3学期終わりまで主な行事等を無事終えることが出来た。来年度も今年度同様の感染対策を行いながら、安心・安全な学校環境作りに取り組んでいきたい。 ・今後、非常災害時等の学年閉鎖、学校閉鎖に対応した一人一台学習者用端末の家庭への持ち帰りの円滑な運用に向けて、家庭における、安全で有効な活用について検討していく必要がある。
----------------	--